

2018 年 4 月 26 日

静岡県内主要産業の四半期見通し調査（2018 年 4～6 月期）

産業景気は回復基調で賃上げが進む、 ただし円高には警戒が必要

産業景気の回復を反映して、県内企業の昇給実施（見通し）企業は過去10年で最高の84.1%に上る。

今後の見通しについては、世界的な景気拡大傾向を受けて輸出型製造業の生産量が増加していくとみられる。

ただし、米国の金利引き上げ以降、金融市場では荒い動きが続いており、円高には警戒が必要となっている。

なお、業種ごとの4～6月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「観光・レジャー」が『やや上昇』、「外食」が『やや下降』で、残る18業種が『横ばい』。

『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が9業種、『低調』が6業種となる見通し。

業 種	調 査 項 目	業界景気	
		現 況 (1 ～ 3 月)	見 通 し (4 ～ 6 月)
製 茶			→ 
食 品 ・ 飲 料			→ 
家 庭 紙			→ 
産 業 用 紙			→ 
工 作 機 械			→ 
民生用電器部品			→ 
自動車部品			→ 
二 輪 車 部 品			→ 
建 設			→ 
住 宅			→ 
大型小売店			→ 
食品スーパー			→ 
自動車販売			→ 
家電量販店			→ 
運輸・倉庫			→ 
情報サービス			→ 
外 食			↘ 
観光・レジャー			↗ 
リ ー ス			→ 
人 材 派 遣			→ 

主任研究員 岩間 晴美

産業景気は回復基調で賃上げも進む中、円高を警戒

産業景気の回復を反映して、大手企業の春の賃上げは前年を上回る回答額が多く、静岡県内においても、昇給実施（見通し）企業は過去10年で最高の84.1%（9頁ウオッチング）に上っている。天候不順で価格が高騰した生鮮品も3月以降、温暖な日が続いたことから生産量が回復しており、週末はさくらの見物客で観光地が賑わった。

今後の見通しについては、世界的な景気拡大傾向を受けて工作機械など輸出型製造業の生産量が増加していくとみられ、また、好天が予想されることからゴールデンウィークを中心に観光・レジャー需要の盛り上がりが見込まれる。ただし、米国の金利引き上げ以降、金融市場では荒い動きが続き、為替相場は一時1ドル104円台を付けており、円高には警戒が必要となっている。

（1）業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現況（2018年1～3月期）は、『好調』業種が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」「人材派遣」の2業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「家電量販店」「運輸・倉庫」「外食」「リース」の10業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「食品スーパー」「観光・レジャー」の7業種で、『不調』業種はなかった。

前回調査との比較では、「家電量販店」と「リース」の2業種が『低調』から『普通』に1ランク上昇した。

（2）業界景気の見通しについて

2018年4～6月期の景気見通しは、全20業種のうち、好天予想からレジャー機会が増えて宿泊客も増加するとみられる「観光・レジャー」が『低調』から『普通』へ『やや上昇』、サッカーワールドカップのテレビ観戦により外食機会が減少するとみられる「外食」が『普通』から『低調』へ『やや下降』で、残る18業種が『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』18業種のうち、『好調』が続くとみられるのが、内外需ともに高水準の受注が続く「工作機械」の1業種。

『順調』のまま『横ばい』と予想されるのが、ソフト開発需要が堅調な「情報サービス」と、人材不足の状況下で幅広い業種からのニーズが高まっている「人材派遣」の2業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、ツナ缶の需要が底堅い「食品・飲料」、トイレ紙の増産が見込まれる「家庭紙」、強気の生産計画を立てるエアコンメーカーを含む「民生用電器部品」、軽自動車向けが堅調な「自動車部品」、公共工事の新年度需要が発現する「建設」、軽自動車の新型車の販売が底堅い「自動車販売」、サッカーワールドカップ開催でテレビ・レコーダーの需要が拡大する「家電量販店」、輸送用機器分野が堅調に推移する「運輸・倉庫」、中小企業の設備投資が増加している「リース」の9業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、新茶仕入れに慎重姿勢がみられる「製茶」、製品価格の横ばいが続く「産業用紙」、国内向けの生産が低水準な「二輪車部品」、貸家着工が前年割れするとみられる「住宅」、衣料品の専門量販店などとの競争が激化している「大型小売店」、水産物や牛肉の販売が低調な「食品スーパー」の6業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年 次		2015年			2016年				2017年				2018年
四 半 期		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ (今回調査)
対象月(○は調査月)		4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③
業界景気の『現況』	(業種数)												
	好調 ☀	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	順調 ○	2	3	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2
	普通 ☯	3	5	7	7	7	7	6	8	8	9	8	10
	低調 ☁	13	11	10	10	10	10	11	9	8	8	9	7
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	全業種の平均階級値	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
業界景気の『見通し』	(業種数)												
	上 昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	2	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	1
	横 ば い →	18	20	20	19	19	20	18	20	19	20	18	18
	やや下降 ↘	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（3月調査であれば1～3月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（3月調査であれば4～6月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…2018年3月上旬

回答企業…県内主要20業種（248社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2018年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (1～3月)	見通し (4～6月)	生産量 (前1～3月期 対比伸び率)	売上高 (前1～3月期 対比伸び率)	生産量 (前1～3月期 対比伸び率)	売上高 (前1～3月期 対比伸び率)	操 業 度	需給 バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前1～3月期対比)	製品価格の動向 (前1～3月期対比)	受注残 (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	☉ → ☉	☉	↗	↗	→	→	○	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	☉ → ☉	☉	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	↗	↗	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	↗	↗	↗	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	0.1～1.0
工作機械	⚙ → ⚙	⚙	→	→	→	→	◎	需要超過	適 正	→	→	1.0～8.5
民生用電器部品	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	☉ → ☉	☉	↘	↘	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～3.0
二輪車部品	☁ → ☁	☁	↘	↘	→	→	◇	均 衡	適 正	→	→	0.5～3.0
建設	☉ → ☉	☉	—	↘	—	→	◎	需要超過	適 正	↗	→	3.0～11.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	供給超過	適 正	↗	→	2.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	☉ → ☉	☉	—	↘	—	→	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	☉ → ☉	☉	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	☉ → ☉	☉	—	↗	—	↗	◎	均 衡	—	↗	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	☉ ↘ ☁	☁	—	↗	—	↘	—	均 衡	—	→	→	—
観光・レジャー	☁ ↗ ☉	☉	—	↗	—	↗	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☉ → ☉	☉	—	↘	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	↗	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ☉	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

主要業種の現況と4～6月期の景況見通し

業種	業界天気	新茶仕入れは慎重姿勢、優良生産者の囲い込みが進む
製茶	☁ →	(現況)・製茶問屋の売上高は、前年並みとなった模様。年末の贈答需要は低迷が続いた。家庭需要は底堅いものの、値ごろ感のある商品が中心で、高価格帯は供給が過剰気味。ドリンク用は高値圏での推移が続いた。
茶	☁	(見通し)・製茶問屋の売上高は前年並みの見込み。在庫は概ね適正水準とみられるが、贈答需要が低迷する中で、新茶期の仕入れには慎重姿勢で臨む茶商が多いとみられる。生産面積が減少する中、良質な茶葉を安定的に仕入れるため、大手茶商を中心に優良な生産者を囲い込む動きが進みそう。

業種	業界天気	ツナ缶需要は堅調だが、製造コスト上昇に警戒
食品・飲料	☉ → ☉	(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年をわずかに上回った模様。ツナ缶の生産量は、前年並みで推移したが、コーン缶とサバ缶は、需要が堅調で前年を上回った。一方、飲料缶類の生産量は、前年を▲5%程度下回った模様。
		(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年をやや上回る見通し。ツナ缶生産量は、内食志向から需要が底堅く、前年並みで推移する模様。ただし、製造コストの上昇は続くともみられ、収益の悪化が懸念される。飲料缶の生産量は、例年より平均気温が高くなり、前年を上回ると予想される。

業種	業界天気	トイレ紙は新工場稼働で増産に向かう見通し
家庭紙	☉ → ☉	(現況)・家庭紙の生産量は、前年並みとなった。再生トイレ紙の生産量は前年並み。原料古紙や燃料、薬品、輸送などコストは上昇しているが、製品価格は横ばいで推移。ティッシュは、生産量、価格とも前年並みとなった。
		(見通し)・家庭紙の生産量は、前年をやや上回る見込み。トイレ紙の新工場が稼働予定で、徐々に増産に向かうとみられる。価格面は、大手などの値上げ表明が続いており、徐々に上向き見通し。ティッシュの生産量は前年並み。値上げを表明している企業があり、動向が注目される。

業種	業界天気	段ボール原紙は需要堅調も、価格は横ばい程度
産業用紙	☁ → ☁	(現況)・産業用紙の生産量は、段ボール原紙が加工食品向けなどの堅調な需要を受けて増産されたことで、前年をやや上回った。昨年8月頃から実施されてきた値上げも定着した。一方、白板紙の生産量は前年並みで、販売価格も横ばいとなった。
		(見通し)・産業用紙の生産量は、引き続き堅調な需要が見込まれる段ボール原紙がけん引して、前年をやや上回る見通し。白板紙の生産量は、前年並みとみられる。価格面は、ともに前四半期から横ばいで推移しそう。白板紙は値上げを表明する企業があり、値上げへの機運が徐々に高まっている。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	引き続き高い水準の受注が続く見込み
工作機械	  	(現 況)・全国および県内の受注額は好調を維持し、前年を+40%程度上回って推移した模様。外需は、旺盛な需要に支えられた中国がけん引、その他の地域も前年を上回った。また、内需も自動車関連が好調で、前年を+30%程度上回った。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を若干上回るとみられる。受注はかつてないほどの高い水準にあり、メインの中国市場は、活発な自動化や省力化投資がしばらく続きそう。国内も、自動車関連を中心に引き続き好調が続く見込み。

業種	業界天気	エアコンは前年実績を若干上回る見込み
民生用電器部品	  	(現 況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、全国的に平均気温が低かったことから、前年実績を若干上回って推移した模様。一方、冷蔵庫および洗濯機はこれまで人気のあった大型タイプが伸び悩み、前年実績を若干下回った。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、気温に左右されるものの、4～6月が平年より暑くなるとの予想があり、強気の生産計画を立てるメーカーが多く、前年を若干上回る見込み。冷蔵庫と洗濯機は、一進一退が続く見込みだが、ともに大容量など高機能機種への伸びに期待が掛かる。

業種	業界天気	国内販売は軽市場が下支えし、県内生産量は前年並み
自動車部品	  	(現 況)・全国の自動車生産台数は、前年をわずかに下回った模様。輸出は堅調に推移したが、無資格検査問題の影響が尾を引き、一部完成車メーカーで減少が続いた。県内部品メーカーの生産量は、取引系列により明暗が分かれた。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、前年並みで推移する見通し。国内販売は、新車効果が一巡した登録車は減少が見込まれるものの、好調な軽市場がカバー。輸出も、欧米向けを中心に堅調な動きが見込まれる。県内部品メーカーの生産量は、前年実績を確保する見通し。

業種	業界天気	完成車メーカー間の生産提携開始により国内生産は前年比増
二輪車部品	  	(現 況)・全国の完成車生産台数は、前年をやや下回って推移した模様。輸出は堅調だったが、排ガス規制対応のため、昨秋より国内向けモデルが一部生産終了した影響を受けた。県内部品メーカーの生産量は、前年比微減で推移したとみられる。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年を上回って推移する見通し。これまで台湾で生産されていたヤマハ発動機の国内向け原付バイクについて、3月よりホンダによるOEM生産が開始されたため。ただし、部品は海外調達が中心で、県内部品メーカーの生産量は、前年実績をやや下回るとみられる。

 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	公共は前年並み、民間は物流施設の着工集中の反動で前年割れ
建設	  	(現 況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。市町は前年を大きく上回ったものの、国、県の発注が伸びなかった。民間の工事費予定額は、前年並みとなった模様。製造業では前年割れとなるも、商業関連が堅調に推移した。 (見通し)・県内の公共工事契約額は、前年並みで推移する見通し。新年度に入り、県内全域で学校や病院などの整備が進むとみられる。民間の工事費予定額は、前年を下回る見通し。前年は物流関連施設の着工が集中したことで工事費予定額が大きく伸びており、反動減が予想される。

業種	業界天気	持家、貸家ともに動きは鈍く、弱含む見込み
住宅	  	(現 況)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや上回った模様。貸家も直近20年間で最低水準となった前年の着工戸数を上回ったとみられる。分譲についても、西部地区で200戸超のタワーマンションが着工したこともあり、前年を上回った模様。 (見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや下回る見通し。住宅ローン金利は低水準で推移するが、消費者も低金利下の環境に慣れつつあり、弱含みが続くとみられる。貸家も地主の動きが鈍く、前年をやや下回る模様。分譲は、マンションの着工が落ち込んだ前年の水準を上回る見通し。

業種	業界天気	専門量販店などとの競争激化で前年をやや下回る見通し
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、気温の低い日が続き来客数が低迷、衣料品を中心に前年を下回った。GMSは、消費者の節約志向の強まりで店舗間競争が激化し、前年をやや割り込んで推移した。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込む見通し。百貨店は、ファストファッションなどとの競争激化で主力の衣料品を中心に低迷が続くとみられる。GMSは、専門店などへの顧客流出で住関連品や衣料品の低迷が懸念され、前年を下回って推移する見通し。

業種	業界天気	生鮮野菜の需要回復で、前年並みを維持する見通し
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移した模様。農産物は、厳冬で大根や白菜、キャベツなどが高騰、カット野菜や冷凍野菜への需要シフトで減少。水産物や肉類は、価格高騰で消費者の買い控えが続いた。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。農産物は、3月以降温暖な日が続き生産量が回復していることから、前年をやや上回る見通し。水産物は、シラスの記録的不漁などで引き続き前年を下回る見込み。肉類は相場高が続く牛肉の買い控えが続くとみられる。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	登録車はSUVを中心に反動減、軽は堅調に推移する見通し
自動車販売	  	(現 況)・県内の登録車販売台数は、前年を▲5.8%下回った。メーカーの無資格検査問題の余波が残ったことに加え、小型HVなどの新型車効果が薄まった。軽自動車は、大型改良のあった主力モデルが好調を維持し、前年を+4.7%上回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年を下回る見通し。一昨年発売の新型SUVなどの納車が進み、昨年販売台数が伸びたことから、今期は反動減が想定される。軽自動車は、昨年11月以降に続いた各メーカーのモデルチェンジ車種の販売が堅調に推移し、前年をやや上回る見通し。

業種	業界天気	サッカーW杯開催でテレビやレコーダーの需要が拡大
家電量販店	  	(現 況)・県内の家電販売額は、前年実績をやや上回った模様。パソコンは需要低迷で前年を▲1割前後下回ったが、4Kテレビや洗濯機は前年を+1割程度上回った。気温の低い日が続く、エアコンやヒーターも売上を伸ばした。 (見通し)・県内の家電販売額は、前年をやや上回る見通し。6月に開催予定のサッカーW杯で、4Kテレビやブルーレイレコーダーの需要拡大が見込まれる。また、ドライヤーや美顔器といった理美容家電も、国内メーカーによる高機能商品の投入効果で、販売額が増加する見込み。

業種	業界天気	トラック輸送量は、前年比微増となる見込み
運輸・倉庫	  	(現 況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や飲料を中心に荷動きが堅調に推移し、前年水準をやや上回った模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や食料品などの荷動きが前年を上回り、前年比+5%程度増加した模様。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器が堅調に推移するとみられ、前年比微増となる見込み。燃料価格が上昇すると予想され、依然として経営を取り巻く環境は厳しい。倉庫の入出庫高については、ウエートの高い電気機械や食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年をやや上回る見通し。

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移し、前年水準を上回る見込み
情報サービス	  	(現 況)・全国の売上高は、前年をやや上回ったとみられる。県内も前年比微増となった模様。ソフト開発、計算事務等情報処理はマイナスとなったが、システム等管理運営受託が堅調に推移した。 (見通し)・全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。県内も、ソフト開発が堅調に推移するとみられ、前年水準を上回ると見込まれる。首都圏から多くの案件を見込んでいるが、IT技術者などの人材が不足しており、案件があっても受けられないケースが想定される。

 好調
  順調
  普通
  低調
  不調
 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

業種	業界天気	サッカーW杯テレビ観戦で夜の外出機会が減少しそう
外食	  	(現況)・県内主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。外食需要は底堅く、大手チェーン店の販促イベントが寄与、大河ドラマ終了による客数減を補った。寒波襲来にもかかわらず、客単価が微増傾向にあり売上高では前年を上回った。 (見通し)・県内主要外食店の売上高は、前年やや下回る見通し。外食需要は安定しているが、大河ドラマ効果のはく落に加えて、6月のサッカーW杯で外出機会が奪われそう。W杯は時差の関係でテレビ放映が午後9時以降になる試合が多く、飲食店のテレビ観戦は敬遠される模様。

業種	業界天気	好天が予想され、主要旅館の売上高は前年を上回る見込み
観光・レジャー	  	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。国内需要は微増傾向にあるが、寒波の襲来で旅行気運が削がれた。早春の梅や桜は例年並みの咲き具合だったが、宿泊客数の増加には直結しなかった。 (見通し)・県内主要旅館の売上高は、前年をやや上回る見通し。国内需要は安定しており、長期予報でも晴天の日が多く、宿泊客も前年を上回る模様。J Rグループが来春実施する大型観光宣伝のプレキャンペーンとして新しい体験旅行商品も供給され、一定の上積みが見込めそう。

業種	業界天気	製造業を中心とした中小企業の投資増から、前年をやや上回る見通し
リース	  	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回った模様。設備投資に対する意欲は、大・中堅企業だけでなく中小企業でも高まりつつあり、生産性向上に向けた投資が増加した。機種別では、産業機械や工作機械が堅調に推移した。 (見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見通し。県内景気は改善傾向が続いており、製造業を中心に中小企業の設備投資が増えていくとみられる。ただし、事業者間においては低いリース料での取引が常態化しつつあり、厳しい収益環境が続く見通し。

業種	業界天気	派遣スタッフの人材確保がさらに困難になると予想
人材派遣	  	(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回った模様。製造業、IT、介護・福祉などで旺盛な需要が続いた。しかし、供給サイドでは人材不足が続いており、派遣先のニーズを満たす人材を思うように確保できず苦戦した模様。 (見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回る見通し。製造業などを中心に幅広い業界で人手不足感が高まっており、引き続き高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、派遣先企業の正社員採用強化が進むとみられ、スタッフの人材確保がさらに困難になると予想される。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☁ 不調 業界天気は上段が1～3月期、下段が4～6月期

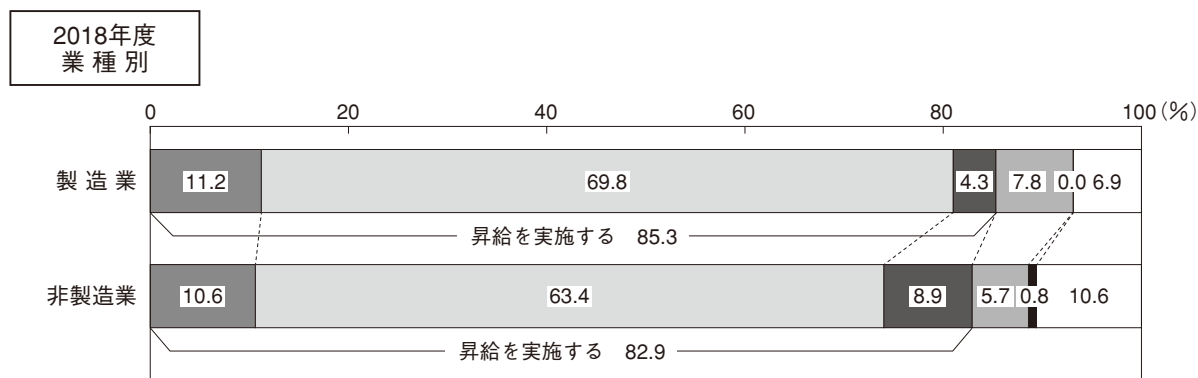
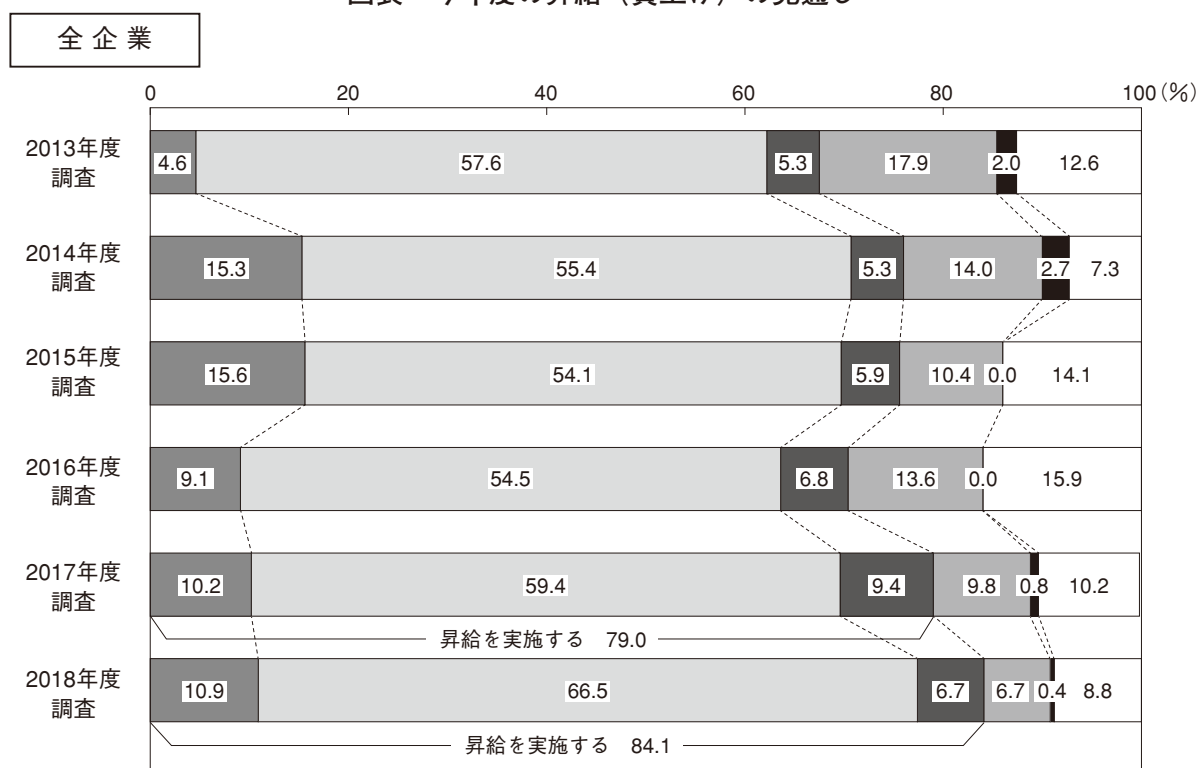
ウォッチング

昇給を実施する企業は前年比＋5.1ポイント上昇し、ここ10年間で最高の84.1%

県内企業に今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」「昨年並みの昇給」「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は84.1%で前回調査（79.0%）から＋5.1ポイント上昇した（図表）。ここ10年間で最も高い水準となり、賃上げの機運が大きく高まってきている。

業種別では、昇給実施企業の割合は製造業で85.3%、非製造業で82.9%となった。製造業は、輸送用機械器具や電機機械器具を中心に、人手不足による人材の定着や人材確保を図る動きなどから、前回調査（84.6%）と同様に8割を超える企業が昇給実施予定。一方、非製造業は、建設業、卸・小売業、運輸・通信業、ホテル・旅館業など幅広い業種で昇給実施が見込まれ、前回調査（73.6%）から＋9.3ポイント上昇した。

図表 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



■ 昨年より高い昇給 □ 昨年並みの昇給 ■ 昨年より低い昇給 ■ 昇給見送り ■ 賃下げを検討 □ 未定

調査要領：調査時点2018年3月、調査対象企業数641社、回答社数239社、有効回答率37.3%